



個別検査

胸部CT検査



肺の末梢の小さながんを 発見するのに有用な検査

X線を照射する装置が身体の周囲を回転しながら撮影したデータを画像化するのが胸部CTです。

胸部X線検査では1cm以下の肺がんを発見することは困難ですが、

CT検査では5mm程度の小さながんを発見することが可能です。

また、胸部X線検査では心臓や骨、血管、横隔膜などに隠れて見えない部分も、

CT検査では鮮明な画像で見ることができます。

通常のCT検査より少ない被ばく線量で胸部を撮影します。

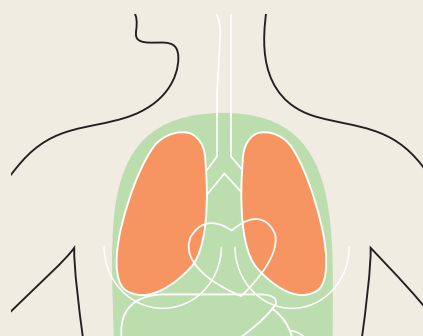
この検査でわかる主な病気

呼吸器系疾患

- 肺がん
- 慢性閉塞性肺疾患
- 間質性肺炎 など

呼吸器系以外

- 大動脈瘤 など



こんな方にお勧めします

- 咳、痰などが続く方
- 喫煙者および受動喫煙が気になる方
- ご家族に肺がんの既往がある方
- 40歳以上の方
- 肺がんが心配な方

症例画像の比較

胸部X線では心臓や骨と重なり分かりにくいですが、CT検査でははっきり写っています。



胸部X線検査による画像

心臓や骨に隠れて肺がんが見つけづらくなっています。



胸部CT検査による画像

心臓の後ろに肺がんがあることが分かります。

肺がんは日本人のがん死亡数のトップ

肺がんは日本人のがんによる死亡者数の第1位。しかし、肺がんの初期はほぼ無症状です。病状の進行とともに、咳(せき)、痰(たん)、血痰、発熱、呼吸困難、胸痛などの呼吸器症状が現れます。喫煙は肺がんとの関連が非常に大きいため、喫煙歴のある40歳以上の人は、症状がない場合でも特に注意が必要です。